

塗料スラッジを半減

協伸塗 바이오システム導入

金属製品表面塗装加工の協伸塗（高岡市吉久、加藤一博社長）は、塗装過程で生じる廃棄物の塗料スラッジを半減させるバイオシステムを導入した。微生物や植物酵素を使ったシステムで、環境負荷を減らし廃棄物の処理コストを抑える。

これまでは工場内に巡らせている循環水に凝集剤を入れてスラッジを回収。脱水し、固形化して処分していた。凝集剤を加えた分だけ廃棄物の量が増えたり、悪臭が発生するなど課題があった。

導入したシステムは金沢市のベンチャー企業、ベストブ

ラン北陸（田本峻治社長）が開発した。凝集剤の代わりに微生物などが入ったバイオ液を投入。スラッジは揮発性有機化合物などが分解されるため軽くなり、回収コストを抑えられる。

燃料として再利用する研究も進んでおり、新しいエネルギー源供給にもつながる可能性がある。